

# 雲心月性

大槻ワールドへようこそ



Camnet マガジンをお楽しみの方の皆様。マガジン版「雲心月性」です。大槻は2021年度から、岡山県真庭郡新庄村の内科診療所で一人医師として勤めています。穏やかな日常の中で、音楽や自然と向き合いながら、濃密な時間を楽しんでいます。

このコラムは、二か月分なのでリアルタイムな様子ではなく、2023年の11～12月の様子をお伝えします。



蒜山高原の四ツ塚史跡公園の紅葉。



村のドキュメンタリー映画上映会のオープニングアクトで弾き語り。



高梁市吹屋ふるさと村へ向かう道路に岩を繰り抜いた隧道「羽山トンネル」。



12月になって村の社会福祉協議会の利用者の年忘れ会で弾き語り。



年末、倉敷市駅西ビルのMusic bar SOMETHINGさんでのライブ。ブルースバンド「ズーズーズ」(右端)。



そして、大晦日は年越しそばです。シンブルに幸多き来る年を祈念して。

さて、オリジナル曲の歌詞紹介。「思い出誘う雨」は、大槻の作詞作曲です。サブスクなどではリリースしていませんが、ネットラジオ「雲心月性」でリンク企画として、11、12月にそれぞれ別バージョンでピアノ弾き語りをする予定です。

.....  
枯葉の街に 思い出誘う 雨が降る  
確かあの日は 小さな傘に  
肩を濡らした 二人だった  
黙りこくって いつもの店で 雨宿り  
確かあなたは 苦すぎる珈琲  
無理に飲んでた 様に見えた  
これが最後と 知ってた二人  
見つめ合えずに 向かい合ってた  
不確かな眼差し 絡み合えば  
サヨナラに震える 愛が見えた

枯葉の街に 思い出誘う 雨が降る  
二人愛した この窓の景色が  
つらい涙に 霞んでった  
震える指で 冷たい紅茶 混ぜてたら  
確か突然 席を立ったあなた

雨の舗道に 消えていった  
いつそ二人で 雨を追いかけ  
知ってる人が いない何処かへ  
不確かな決断 告げる前に  
サヨナラを残して 愛が消えた

ああ これから 紡ぐ時間に  
あなたの姿は 欠片も 見えずに  
私は その声も そして 肌の色も  
いつか知れず 忘れてしまう

これが最後と 知ってた二人  
見つめ合えずに 向かい合ってた  
不確かな眼差し 絡み合えば  
サヨナラに震える 愛が見えた  
.....

二か月分のコラムですので、時事的な話題は避けてしましますが、被災地復興さらに国際平和を祈念しています。



## プロフィール 大槻 剛巳 (おおつき たけみ)

- 1956年: 京都府福知山市生まれ
- 1970年: 京都府陸上競技大会100mハードル2位・KBS近畿放送AMラジオでリスナーの歌詞採用
- 1972&75年: NHKあなたのメロディー出演
- 1974年: YAMAHAポップコン全国大会(譜面の部)出場
- 1977年: YAMAHA神戸との連携で楽曲制作依頼
- 1981~2021年: 川崎医科大学血液内科~衛生学
- 1992~1996年: 米国留学(ミネソタ大学&NIH)
- 1997&2024年: 岡山県文学選奨現代詩部門選外秀作・準佳作で「岡山の文学」に掲載
- 2009年: Camnetラジオ: パーソナリティー開始
- 2011年: Camnetマガジン: 連載開始
- 2014年: サブスクにて自作自演アルバムリリース開始
- 2021年: 新庄村診療所所長(現職)